

「たらまピンダ(山羊)」の生産とふるさとづくり (平成22年度認定)



多良間村は第一次産業が主で、住民は昔から山羊や牛を飼育することで、食料や現金収入源を得ていたが、昭和56年の山羊飼養頭数をピークに、減少し続けていた。

そのため、山羊の飼育頭数の増加等を目指し、平成18年に多良間村山羊生産組合が発足した。その後飼育頭数も順調に増加し、平成22年に「第1回多良間ピンダアース大会」(山羊の決闘)を実施することで、「たらまピンダ」のPRと、観光客誘致を図り、農業観光産業の振興にも寄与している。

また、平成19年~20年「地域資源(たらま山羊)雇用創出事業」により、加工施設等の整備が行われた。今後、既存の多良間山羊を守る一方「おきなわ山羊振興活性化事業」を取り入れ、山羊の増体性、肉質などの改善のため、発育に優れている外国の山羊(ボア種)を導入し、大型化に取り組み、新たなたらま山羊のブランド化を目指し、【たらまピンダ(山羊)の生産とふるさとづくり】に取り組んでいる。

